

Japanese Activists File Lawsuit Against Taiji

日本の活動家が太地に対する訴訟を起こした

Recently Dolphin Project had the opportunity to talk with Ren Yabuki of Life Investigation Agency (LIA). LIA focuses on animal advocacy within Japan. We first met Ren in the 2016/17 dolphin hunting season when he came to Taiji to learn about issues surrounding the captivity industry in Japan.

最近ドルフィンプロジェクトはLife Investigation Agency (LIA) のヤブキ レンと話す機会を得ました。LIA は日本国内の動物の権利に焦点を当てています。私たちは、2016/17年のイルカ猟のシーズンに、彼が日本の野生動物の捕獲と販売を取り巻く問題について知するために太地にやって来たときに、最初にレンに出会いました。

LIA has been responsible for several legal actions in Japan, successfully defending the rights of animals. LIA, in partnership with a local Taiji resident, just announced a lawsuit aimed against Taiji's dolphin drive hunts, and the unethical treatment and torture of dolphins in this practice. LIA hopes this lawsuit will ultimately bring an end to the hunts and to the suffering of dolphins in Taiji.

LIA は日本におけるいくつかの法的措置に責任を持ち、動物の権利を擁護してきました。LIA は、地元の太地住民と提携して、太地町の小型鯨類の追い込み網漁を狙った訴訟と、この行為における倫理に反するイルカの扱いと拷問を発表しました。LIA は、この訴訟が最終的に、太地の猟とイルカの苦しみに終止符を打つことを望んでいます。

ヤブキ レン との質疑応答

動物には心があることを人々に理解してもらいたいです。彼らは感情を持っています。私たちが同じ言語を話せなかったり、同じ種でないからといって、殺して良いわけではありません。

質問 Q : 太地町のイルカ猟を知ったきっかけは何ですか？

答え A : 私は太地町のイルカ猟について映画「THE COVE」で知りました。

質問 Q : 日本国内で行われているイルカ猟について、日本国内ではどのくらい報道されていますか？、また、その報道がある場合、報道内容が偏っていると思いますか？

答え A : 私は日本で行われている鯨類の猟について、日本のメディアの報道は、とても偏っていると思います。日本では、きちんと報道されていませ

ん。ただしこれは鯨類の猟だけではなく、日本では多くの情報が隠されており、本当の事を報道するメディアはとても少ないです。

質問 Q：あなたは太地町でイルカ猟を自分の目で見た時、どのような気持ちになりましたか？

答え A：体の中がとてもザワザワしました。何をどう考え、どうすれば良いのかわからず、血液が逆流するような感覚になりました。この感覚を言葉で説明する事はとても難しいですが、恐怖と悲しみと怒りと絶望が混じった言い表せない感情です。私はこの日の猟が終わったあと、とても疲れました。

質問 Q：太地町の町民はイルカ猟を支持していると思いますか？

答え A：太地町の人々は、イルカ猟について、あまり関心が無いと思います。

質問 Q：日本国民は、太地町のイルカ猟を支持していると思いますか？、また水族館やレジャー施設に野生のイルカが監禁されて人間に利用されている事については？

答え A：日本国民の殆どの方は、水族館にいるイルカが野生の状態です。自由に生きていた時に無理矢理つかまされたという事実を知りません。その事実を知れば、多くの方が反対するようになると思います。特に、捕まされた野生のイルカが 450 万円～600 万円で生体販売されている事実を知れば、それは良くない事だと思う筈です。

質問 Q：これらの問題は、日本の問題か、世界の問題か、どちらの問題だと思いますか？

答え A：これは日本人の自然やどうぶつの命に対する低い倫理観の問題です。しかし、水族館やレジャー施設でのイルカショーに使うために、太地町から生きたイルカを購入する事は購入する国の人達の倫理観の低さも問題です。

質問 Q：今回の訴訟について教えてください。その訴訟の目的は何ですか？

答え A：LIA はイルカの追い込み猟を終わらせたいと考えています。

質問 Q：私は、今回の訴訟に太地町の町民が参加している事を知っています。この方は、どのようにして訴訟に参加する事になったのですか？

答え A：太地町からこの訴訟に参加しているのは、私の友人です。その方は、太地町内に暮し、孤独の中で長い間、イルカ猟に反対してきました。太地町でイルカ猟に反対する事はとても大変です。その方は、私の呼びかけに対して勇気を持って立ち上がってくれました。その方の勇気に敬意を表します。

質問 Q: あなたは、この訴訟によって、太地町のイルカ猟にメディアが注目するようになると思いますか?、また野生どうぶつが捕獲されて監禁されて見世物になる事が動物園や水族館の実態ですが、メディアは、それを伝えていますか?

答え A: どうぶつの殺害とその許可に対する訴訟は、日本で初めて行われるため、それがどのように日本国内で報道されて行くのか解りません。しかし事実を正確に伝えようとするジャーナリストがいれば、この訴訟の意味は日本国民に伝わる事でしょう。正しい倫理観を持ったジャーナリストがおらず、正しい倫理観を持ったメディアがいなければ、この問題は歪められて伝わって行くでしょう。

水族館や動物園にいる動物たちは、本当は、自然の中で自由に生きていた野生の生きもの達であり、家族や群れや最愛の仲間たちと平和に暮らしていたところを、いきなり人間に無理矢理つかまえられ、動物園や水族館に監禁されて、一生の間、死ぬまで閉じ込められて、二度と家族や仲間たちに会えないまま死んでゆく事実を報道してほしいと思います。彼らは人間と同じ、感情を持った生きものだという事を伝えてほしいと思います。

質問 Q: 西洋文化と日本の文化とでは、異なった文化的発展を遂げていますか?

答え A: いいえ。西洋は日本よりも倫理観や考え方が進んでいますが、何年も遅れるとはいえ、いずれ、日本も同じようになって行くと思います。同じ「人類」という種類のどうぶつですから。ただし、ただその時を待っていても、殺される動物の数が増え、破壊される自然環境が拡大するばかりですから、1日も早く良い方向に進まなければならないと思って活動しています。

質問 Q: 人々は、どのように、LIA やこの訴訟をサポートすることができますか?

答え A: LIA は、皆さまからのご寄付により活動することが出来ている NGO 団体です。ですから、あなたからの寄付により、私たちは活動ができ、イルカ猟と闘うことができます。

私たちへの寄付や、寄付の具体的な方法については、以下の Web サイトをご覧ください。

https://ngo-lia.org/charity/en_charity.php

私たちと話す時間を割いてくれた レンと LIA に感謝します。

そして新しい出来事が起こりしだい、このブログを更新するでしょう。